

教員名	倪鏡	所属学科	地域づくり学科
<p>【ゼミでは何を学ぶのか】</p> <p>本ゼミでは、農業・農村問題を理論的、実践的に学びます。まず農業経済学、地域政策学などに関する基本理論や専門的な知識を学習し、そのうえフィールドワークを通じて農業・農村が直面している問題を理解するとともに、その解決策を考えます。</p> <p>フィールドワークのポイントは、地域の実態を知るだけでなく、その実態に対する問題認識を持つことにあります。ゼミ活動は、地域農業を担う生産者や農村活性化に取り組むリーダー、そして自治体や農協の担当者など、農業・農村の再生にかかわる様々な方の声を聞き、そして彼らが現場で実践されている様々な取り組みにかかわることを通じて農業・農村への問題意識を深めます。</p> <p>なお、本ゼミは原則として学生が主体的に運営するため、ゼミ活動を通じて学生の自主性・協調性とコミュニケーション力が鍛えられます。</p>			
<p>【どのように学ぶのか】</p> <p>基礎ゼミでは、農業・農村問題の入門書を用いて輪読を実施します。担当者はその都度発表資料を作成しプレゼンを行います。発表内容を踏まえみんなで議論します。</p> <p>演習Ⅰでは、前期に農業・農村に関する基本的な問題と理論を理解するため、①専門的な書籍・文献を用いて輪読を行い、②後期に実施するフィールドワークにそなえ、情報蒐集や文献整理、グループワークを行います。グループワークのテーマは、ゼミ生らが自分たちの興味・関心によって設定されます。後期にはあらかじめ設定したテーマに基づき、フィールド調査を行い、その結果をグループごとにとりまとめ、最終的に報告書を作成します。場合によって報告会を開きます。</p> <p>演習Ⅱでは、卒業論文の執筆に関する指導を行います。</p>			
<p>【学んだことはどのように生かせるのか】</p> <p>本ゼミは、現場重視をモットーとし、農山村地域を中心にフィールドワークを実施します。そうしたことを通じて、専門知識を獲得するとともに、現場でコミュニケーション力、協調性と思考力なども鍛えられます。そして、地域の課題を解決するため、問題の発見から要因の解析、解決策の探求まで自らの力で挑戦し、実践を通して行動力、実践力と問題解決力を磨かれます。</p> <p>まだ卒業生は輩出していませんが、地方自治体、農業関連団体・民間金融機関、食品製造・流通関連企業、一般企業等の職種での活躍が期待できます。</p>			

【おすすめの入門書・基本テキスト】

生源寺真一『農業がわかると 社会のしくみがみえてくる』

田代洋一著『農業・食料問題入門』

農水省『食料・農業・農村白書』(各年次)など

【まだ見ぬ君へのメッセージ】

グローバル化とローカル化が平行している今では、地球規模で視野を持ちながら、地域の視点で問題を捉え、解決していくことが求められています。ぜひ4年間の大学生活を通して、「世界の中の日本」の意識を身につけ、地域に発生する様々な問題解決に挑戦してください。